

米国

ISM景況指数（2021年7月）

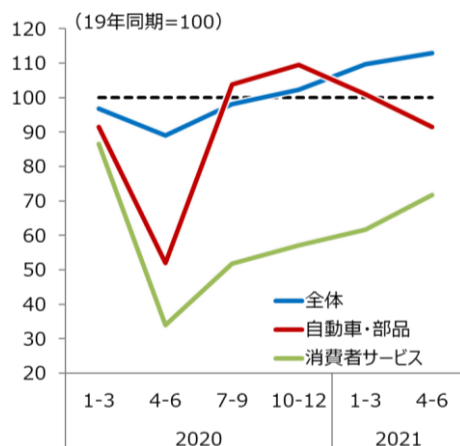
堅調な企業マインドが継続する一方、供給制約も続く

政策・経済センター
田中高大
03-6858-2717

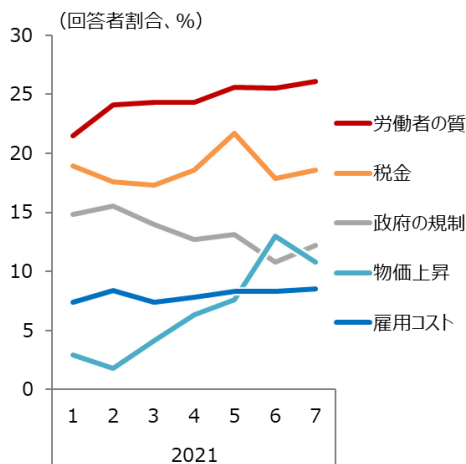
1 ISM景況指数（総合）



2 S&P500構成企業の売上高



3 中小企業のもっと重要な課題



評価ポイント

今回の結果

- 21年7月のISM製造業景況指数は59.5と、2カ月連続で前月から下落した。
- 製造業指数を構成する5項目のうち、新規受注（64.9）、生産（58.4）、入荷遅延（72.5）、在庫（48.9）が下落した。一方で、雇用（52.9）は上昇し、拡大を示す50を上回った。また、サブ項目の仕入れ価格指数は85.7と、過去最高となった前月からは下落したものの、依然高い水準となった。
- 21年7月のISM非製造業景況指数は64.1と、前月から上昇し、2カ月ぶりに過去最高を更新した。
- 非製造業指数を構成する4項目をみると、ビジネス活動（67.0）が大幅上昇したのに加え、新規受注（63.7）、入荷遅延（72.0）、雇用（53.8）の全てで上昇した。業種別では、芸術・娯楽や宿泊・飲食で力強い拡大となった。

基調判断と今後の流れ

- 米国の企業マインドは引き続き堅調に推移している。特に芸術や宿泊など外出関連サービス業はペントアップ需要が顕在化している。一方で、依然として原材料や労働力の不足や、物価上昇が企業活動の重しとなっている。
- 大企業の4-6月期の売上高を見ると（図表2）、全体としては19年同期比でプラス幅を拡大したものの、半導体不足を映じて自動車・部品の売上は19年同期を下回っている。半導体不足の長期化が予想されるなか、下半期も生産調整を迫られるほか、情報通信機械などにも影響が及ぶ可能性がある。
- また、中小企業は、最大の課題として、求人に対して適格な応募者がいないとして「労働者の質」を一番多く挙げており、スキルのミスマッチから人手不足に悩まされているほか、足元の物価上昇の影響も受けている模様だ（図表3）。
- 加えて、デルタ株の蔓延によって新規感染者数が急増していることも懸念材料だ。今後感染がさらに拡大し、再び行動抑制を迫られる事態となれば、好調な外出サービス業の回復も阻害しよう。